ツアー番号
LKGR3NCBND

セイロンの最高峰（16日間）

15日間・14泊　ドライバーガイド付きプライベートツアー

AI生成画像・実際の写真ではありません

このツアーについて

この16日間のツアーは、スリランカの西海岸、南部の奥地、乾燥地帯の野生動物地域、高地、そして文化都市のキャンディを巡るもので、ゆったりとしたペースで複数夜の滞在を含みながら進みます。ネゴンボのビーチで始まり、ガレとその植民地時代の砦を通って南海岸に沿って進み、野生動物サファリのためヤラに続き、エラとヌワラエリヤ周辺の高地を登ってからキャンディで終了します。

旅行者は海岸、野生動物、風景、そして遺産の混合を体験します：ガレ近くのウミガメ保全活動とマングローブ川のツアー、ヤラ国立公園でのヒョウとゾウのサファリ、エラのナインアーチブリッジとリトルアダムズピーク、ヌワラエリヤ近くのホートンプレーンズとワールズエンド、そしてキャンディの仏歯寺とロイヤルボタニカルガーデンズ。ヤラとキャンディでは休息または独立した探索のための自由日が組み込まれています。

このツアーはシャフォーガイドが交通を担当するプライベート日程として実行されるため、固定グループプログラムではなく旅行者に合わせてスケジュールを柔軟に調整できます。



日程詳細

1日目　ネゴンボ(1~2日目)

西海岸のネゴンボで2日間過ごし、旅の疲れを癒やします。ネゴンボは美しいビーチと長い歴史を持つ漁業で知られています。



ネゴンボ・ビーチ

ネゴンボの砂浜はスリランカ西海岸に広がり、何世紀にもわたって営まれてきた漁業の様子を見学できます。アクティブに過ごしたい方にはマリンスポーツもご用意されています。

AI生成画像・実際の写真ではありません

ダイビングと沈船

サンゴ礁や豊かな海洋生物の間を泳ぐダイビングを楽しめます。沖合には50年前に沈んだ難破船があり、今では多くの魚たちの住処となっています。

3日目 ネゴンボ → ガール

南へ向かい、ポルトガルとオランダの統治の歴史が刻まれたガールの町へ。途中、ウミガメの保護活動について学ぶ立ち寄りもあります。



ガール要塞

ガール要塞はポルトガルおよびオランダ統治時代に築かれた、アジアで最も保存状態の良い要塞のひとつです。オランダ語名が今も残る石畳の道を歩き、博物館や灯台を訪れ、かつての統治の中心地にまつわるガイドの話に耳を傾けましょう。

Rovin Shanila · CC BY-SA 4.0



コスゴダ・ウミガメ保護センター

南西海岸にあるコスゴダ・ウミガメ保護センターでは、スリランカの海岸に上陸する5種の絶滅危惧種のウミガメの卵を保護する活動を行っています。コスゴダ・ウミガメ保護プログラムは、子ガメの生存率を高める取り組みを行っており、訪問者は子ガメを見たり触れたり、餌をあげたりできるほか、保護されている負傷した成体のウミガメも見学できます。

AI生成画像 · 実際の写真ではありません

4日目 ガール

丘の上のランドマークと、昔から続く沿岸の漁の伝統を体感する、ガール周辺を巡る1日です。



ルマッサラの丘

ガールの東3キロメートルに位置するルマッサラの丘の頂には白い仏塔がそびえ、ウナワトゥナ・ビーチのランドマークとなっています。ここは、ハヌマーンがドローナギリ山の破片を落としたとされる5つの伝説の地のひとつであり、シータがランカーに滞在していた間に住んでいたとも言われています。

AI生成画像 · 実際の写真ではありません

コッガラのストルト・フィッシング(高足漁)

コッガラの海岸沿いで、何世代にもわたって受け継がれてきた高足に乗った独特の漁法を見学します。地元の漁師たちがその技術について説明してくれ、夕暮れ時には海岸に浮かぶシルエットを撮影する絶好の機会となります。

5日目 ガール → バラピティヤ → ガール

マングローブの生態系が広がるマドゥ川をボートで巡る日帰り旅です。



マドゥ川ボートツアー

マドゥ川での2時間のボートツアーでは、マングローブが作り出す狭い水路を進み、日光浴をするワニやオオトカゲの姿を見ることができます。ツアーでは、シナモン栽培を営む住民が暮らす小さな島、魚によるマッサージ体験、そして自然のままの水鳥の姿も楽しめます。

SUPindia · CC BY-SA 4.0

6日目 ガール → ヤーラ

ヤーラへ向かう途中、特別な製法で知られる紅茶工場と、珍しい海岸地帯に立ち寄ります。



ハンドゥヌゴダ紅茶工場

「ヴァージン・ホワイト・ティー工場」としても知られるこの農園では、摘み取りから加工まで人の手が一切触れないという独自の製法で有名なヴァージン・ホワイト・ティーを生産しています。見学では工場の歴史を学び、チョコレートケーキとともにお茶の試飲ができ、茶葉の購入も可能です。

AI生成画像 · 実際の写真ではありません



ウッサンゴダ

ウッサンゴダは、有害な重金属を含む蛇紋岩の荒れた海岸台地で、特殊な適応を持つ小さな植物のみが育つ場所です。ラーマーヤナの伝説では、ハヌマーンの燃える尾がラーヴァナ王の領土に火を放ったことがこの土地の不毛さの由来とされ、また、ハヌマーンによって破壊される以前は、ラーヴァナの飛行戦車の発着場として使われていたとも言われています。

A.Savin · FAL

7日目 ヤーラ(7~8日目)

スリランカで2番目に大きな国立公園、南東海岸のヤーラ国立公園で2日間サファリを楽しみます。



ヤーラ国立公園サファリ

ヤーラには有名なスリランカヒョウ、ワイルドウォーターバッファロー、スリランカのナマケグマ、大きな群れをなす象のほか、多くの哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、無脊椎動物が生息しています。

Ranmith Welikala · CC BY-SA 4.0

9日目 ヤーラ

ヤーラのホテルでゆったりと過ごす自由な1日です。

10日目 ヤーラ → エッラ → ヌワラエリヤ

エッラを経由して高原地帯へ向かい、人気の見どころを巡ったのち、ヌワラエリヤへと向かいます。

エッラのハイライト

道中には鮮やかな緑の茶畑が広がり、リトル・アダムス・ピークを望む岩場の景色も楽しめます。ナイン・アーチ・ブリッジ(九連橋)を渡るウォーキングでは、その建設にまつわる物語を聞きながら進み、独特なループ構造の線路で知られるデモダラ駅へと至ります。

11日目 ヌワラエリヤ

英国人の避暑地として築かれた高原リゾート、ヌワラエリヤを探訪する1日です。



ヌワラエリヤの町

ヌワラエリヤは19世紀から20世紀初頭にかけて、英国人にとって最高級の避暑地として栄え、今も当時の面影を残す可愛らしいコテージや趣あるヴィラ、邸宅が街並みに残っています。赤レンガ造りの古い郵便局では手頃な価格のカラフルな絵葉書が販売されており、クイーンズ・ヴィクトリア公園やグレゴリー湖は、のんびりと過ごすのに最適な場所です。

Abdul malik77 · CC BY-SA 4.0

12日目 ヌワラエリヤ

高原の絶景と展望スポットを楽しむ、ホートン・プレインズ国立公園への日帰り旅です。



ホートン・プレインズとワールズ・エンド

オヒヤにあるホートン・プレインズ国立公園は、高山草原と雲霧林が織りなす風景が特徴です。公園の見どころには、ワールズ・エンドからの壮大な眺めや、涼やかな水しぶきを感じられるベイカーズ・フォールズがあり、固有種の動物を観察したり、この地域で発見された考古学的な遺物についての解説を知ることもできます。

Faslan at en.wikipedia · CC BY-SA 3.0

13日目 ヌワラエリヤ → キャンディ

列車でキャンディへと向かい、この町の伝統文化を紹介する伝統舞踊ショーを観賞します。



キャンディ伝統舞踊ショー

この1時間のパフォーマンスでは、ファイヤーダンサーや剣舞、太鼓の音に合わせて踊るキャンディアンダンサーなど、スリランカで最も人気のある芸能の数々が披露されます。

Arian Zwegers · CC BY 2.0

ハットンからキャンディへの列車旅

ハットンからキャンディへの列車の旅は、スリランカで最も美しい高原地帯の景色の中を走り、茶畑、霧に包まれた山村、山々、森、そして道中の滝の眺めを楽しむことができます。

14日目 キャンディ

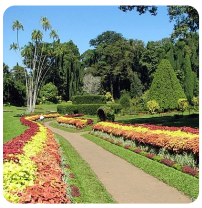
キャンディで最も重要な宗教的聖地と植物園を訪れる1日です。



仏歯寺

このユネスコ世界遺産は、16世紀に仏陀の聖なる歯の遺物を納め守るために建てられました。寺院の回廊や広間は赤、クリーム色、黒で美しく彩色され、彫刻の施された柱や黄金の仏像が随所に見られます。

A.Savin · FAL



ペラデニヤ王立植物園

19世紀初頭に設立されたこの植物園には、ランや香辛料、薬草植物を含む4,000種以上の植物が広大な敷地内に植えられています。見どころには、カノンボールツリー(ホウガンボクの木)、吊り橋、生垣の迷路、そして登るのに適した大木などがあります。

Bernard Gagnon · CC BY-SA 3.0

15日目 キャンディ

キャンディのホテルでゆったりと過ごす自由な1日です。

含まれるもの

含む

- Transport in a Private Vehicle, Fuel, Parking & Highway tolls.
- Service of English-Speaking Chauffeur Guide.
- All prevailing taxes and service charges.

含まない

- Hotel Accommodation and Meals.
- Entrance fees to the respective sites.
- Chauffeur Guide's Accommodation.
- Expenses of personal nature.
- Visa and Related Expenses.
- Tips & Portages.